■湯浅常山　　儒学者。岡山藩士として善政を担いながら，博覧強記ぶりを発揮して，膨大な武将の逸話集「常山紀談」を遺した。
ゆあさじょうざん
ｼﾄﾞｯﾁ拘束・ 1708＝　　代々岡山池田藩に仕え，誠実な良吏として要職を歴任する湯浅又右衛門子傑の長男に生まれる。
徳川綱吉没・1709＝ 1歳：
　　母も賢夫人として知られる環境に育ち，

　　_幼くして，「保元物語」から「太平記」まで戦記もののほとんどを暗誦するまでになり，
徳川吉宗将軍1716＝ 8歳：
隅田川の桜・1717＝ 9歳：

懐徳堂公認・1726＝18歳：

　　_朱子学一辺倒の藩の学風を嫌い，古文辞学に惹かれ，

・・・・・・1731＝23歳：_家督を継ぐと，
享保大飢饉・1732＝24歳：_江戸に出て，荻生徂徠の高弟服部南郭に詩を学ぶ。

　　以後，藩士として岡山在住が主であったが，
昆陽蕃諸考・1735＝27歳：
　　江戸出府の際には，太宰春台・井上蘭台・松崎観海らと親交を結ぶ。

ﾛｼｱ船出没始 1739＝31歳：*この頃，「常山紀談」の初稿をまとめると，太宰春台に送って批判を請い，厳しい指摘と親切な助言を得ると，早速書き直しにかかるも容易でなく，以後，30年ほどかかることになる。

梅岩没・・・1744＝36歳：
徳川吉宗隠居1745＝37歳：
　　終生，歴史と儒学への情熱を燃やしながらも，あくまで岡山藩士として生きる責務を自らに課し，剣術・槍術の稽古をかかさず

・・・・・・1750＝42歳：藩命で讃岐丸亀に赴いた帰途，瀬戸内海で暴風雨に遭遇した際，難破寸前の船中で皆がうろたえるなか，悠然と詩を詠じるほどの剛毅さを示すほどで，
徳川吉宗没・1751＝43歳：
薩摩藩工事・1753＝45歳：

宝暦事件・・1758＝50歳：_寺社奉行に就任，

大岡忠光没・1760＝52歳：

・・・・・・1762＝54歳：
・・・・・・1763＝55歳：*町奉行に就任し，公正さで町民には絶大な人気を得，

意次側用人・1767＝59歳：寄合組頭。*ようやく，320話に及ぶ膨大な武将の逸話集「常山紀談」を完成し，松崎観海の序文を得る。
久留米藩工事1768＝60歳：_藩の裏判役すなわち財務担当に抜擢されて，藩財政の建て直しに当り，諸改革案を提示するも，
・・・・・・1769＝61歳：*重臣に忌まれて，突如懲戒免職，押込隠居を命じられ，家督は長男に渡る。

御蔭参流行・1771＝63歳：
田沼意次老中1772＝64歳：
　　_以後，常山楼に篭って遠望を楽しみつつ，執筆に専念，荻生徂徠一門の学者の逸事，人物評・書籍談などが生き生きと語られた「文会雑記」など多くの著作を遺し，

・・・・・・1780＝72歳：
・・・・・・1781＝73歳：_没した。
　　刊行されたのは，すべて没後となった。

「人づくり風土記(岡山)」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，